

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 3 卷

平成 28 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

地域ケア包括システムの構築がすすむ中、各自治体による地域医療構想の策定や特定行為に係る看護師の研修制度の本格的な開始、医療提供システムの新たな構築や地域連携の強化など、看護は大きなうねりの中にあります。質の高い看護を提供する人材の育成、組織変革のリーダーシップを担う看護管理者の育成など、看護キャリア支援センターの役割は広がってきました。そこで、平成 28 年度は、前年度までの事業に加えて、新たに「認定看護管理者教育課程（サードレベル）」を開設し、看護部のトップマネジメントを担う人材育成を開始しました。

感染管理認定看護師教育は平成 28 年度までの 3 年間で 70 名の修了生を輩出し、48 名の感染管理認定看護師が誕生しました。地域医療への貢献を一旦成し終えたと判断し、今年度で休講することになりました。多大なるご支援・ご協力を賜りました多くの関係機関および講師の方々に深く感謝しております。今後は、認定看護師の資格取得への支援や、医療機関で活躍する修了生の感染管理認定看護師としての活動を継続的に支援していきたいと考えております。

公立大学法人第 2 期の地域貢献に関する目標の一つに、「看護キャリア支援センターの機能を活かし、新たな認定看護師の養成など看護職者のキャリア形成に貢献するとともに、実績を検証する」ことが明示されました。次年度は、認知症看護認定看護師教育課程を開設することになり、その準備を進めております。

当センターが本格的に事業を開始して 3 年目です。皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただくと共に、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
丸 岡 直 子

目 次

(ページ)

I. 感染管理認定看護師教育課程	1-5
1. 目的・目標	1
2. 実施状況	1
3. 実施内容	1
4. 評価	4
5. 今後の課題	5
II. 認定看護管理者教育課程（サードレベル）	6-9
1. 目的・目標	6
2. 実施状況	6
3. 実施内容	7
4. 評価および今後の課題	9
III. 保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）	10-11
1. 目的・目標	10
2. 実施状況	10
3. 実施内容	10
4. 評価	11
5. 今後の課題	11
IV. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	12-13
1. 目的・目標	12
2. 実施状況	12
3. 実施内容	12
4. 評価および今後の課題	13
V. 認定看護師活動報告会	14-15
1. 目的	14
2. 実施状況	14
3. 実施内容	14
4. 評価	15
5. 今後の課題	15
VI. 石川県看護教員現任研修事業	16-17
1. 目的・目標	16
2. 実施状況	16
3. 実施内容	16
4. 評価	17
5. 今後の課題	17
VII. 認知症看護認定看護師教育課程の開設準備	18
1. 教育機関申請と認可	18
2. 入学試験説明会の開催	18

I. 感染管理認定看護師教育課程

1. 目的・目標

【目的】

医療関連感染の予防と管理に必要な専門的知識及び高度な技術を持つ感染管理認定看護師を育成し、安全な医療を提供する。

【目標】

- 1) 感染管理における病院の役割と機能及びシステムについて理解する。
- 2) 感染管理に必要な感染症と抗菌薬、および微生物と微生物検査について知る。
- 3) 病院感染対策の基本をふまえ、エビデンスのある感染防止技術を理解する。
- 4) 職業感染予防を理解する。
- 5) 医療関連感染サーベイランスについて理解する。
- 6) 自施設の感染防止対策の課題を明らかにし、改善策を考える。

2. 実施状況

【期間】

平成 28 年 7 月 5 日（火）～ 平成 29 年 2 月 15 日（水）

【履修整数】

20 名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	女性 15 名 男性 5 名
平均年齢	38.2 (26-47) 歳
所属施設の所在地	石川県：4 名、富山県：5 名、福井県：5 名、新潟県：1 名 茨城県：1 名、滋賀県：1 名、大阪府：2 名、香川県：1 名

2) 入学時の臨床経験年数と感染に関する実務経験年数 (表 1)

表 1 入学時の臨床経験と感染に関する実務経験

	臨床経験 (名)	感染に関する実務経験 (名)
3 ～5 年		13
5 ～10 年	10	5
11 ～15 年	2	2
16 ～20 年	4	
21 ～	4	
平均経験年数	13 年	5 年

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎

科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表2に示す。

表2 授業科目と時間数

授 業 科 目		時間数
共 通 科 目	看護管理	15
	リーダーシップ	15
	文献検索・文献講読	15
	情報管理	15
	看護倫理	15
	指導	15
	相談	15
	臨床薬理学	15
	【小計】	120
専 門 基 礎 科 目	感染管理学	30
	疫学と統計学	30
	微生物・感染症学	45
	医療管理学	15
	【小計】	120
専 門 科 目	医療関連感染サーベイランス	45
	感染防止技術	30
	職業感染管理	15
	感染管理指導と相談	15
	洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント	15
	【小計】	120
学内演習 感染管理プログラムの立案Ⅰ 感染管理プログラムに必要な知識 微生物検査演習		90
臨地実習		180
総時間数		630

【担当教員】

主任教員：石川倫子（准教授）

担当科目：文献検索・文献検討、看護倫理、指導、感染管理学、医療管理学、感染管理指導と相談、学内演習、臨地実習

専任教員：嶋田由美子（特任講師）

担当科目：看護管理、リーダーシップ、看護倫理、相談、感染管理学、医療関連感染サーベイランス、洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント、学内演習、臨地実習

【非常勤講師】

非常勤講師と担当科目一覧を表3に示す。

表3 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
藤田恵子	国立病院機構天竜病院	看護管理
越中のり子	国立病院機構富山病院	看護管理
野田洋子	金沢医科大学病院	リーダーシップ、医療関連感染サーベイランス、感染防止技術
吉村光弘	公立能登総合病院	情報管理
稲垣時子	国立がん研究センター東病院	情報管理
中出順也	金沢大学附属病院	臨床薬理学、微生物・感染症学
池田浩幸	石川勤労者医療協会城北病院	臨床薬理学、微生物・感染症学
多賀充俊	金沢医科大学病院	臨床薬理学
石角鈴華	北海道医療大学	臨床薬理学
中田恵子	やわたメディカルセンター	医療安全管理
山根隆子	国立病院機構金沢医療センター	医療安全管理
中村 隆	中村・平井・田邊法律事務所	医療安全管理、医療管理学
竹村美和	滋賀医科大学医学部附属病院	感染管理学
藤田 烈	東京大学医学部附属病院	疫学と統計学
飯沼由嗣	金沢医科大学	微生物・感染症学
上田幹夫	恵寿金沢病院	微生物・感染症学
笹川寿之	金沢医科大学	微生物・感染症学
土島 睦	金沢医科大学	微生物・感染症学
中積泰人	金沢市立病院	微生物・感染症学
薄田大輔	金沢医科大学	微生物・感染症学
西 耕一	石川県立中央病院	微生物・感染症学、医療関連感染サーベイランス
森岡浩一	金沢医科大学	微生物・感染症学
渡邊珠代	石川県立中央病院	微生物・感染症学
新川晶子	石川県立中央病院	微生物・感染症学、
千田靖子	金沢大学附属病院	微生物・感染症学
金谷和美	金沢医科大学病院	微生物・感染症学
浅香敏之	国立病院機構名古屋医療センター	微生物・感染症学
新谷静子	東海北陸厚生局石川事務所	医療管理学
南 陸男	能登中部保健福祉センター	医療管理学
中村真寿美	金沢科大病院	医療管理学
高山一夫	京都橘大学	医療管理学
森兼啓太	山形大学医学部附属病院	医療関連感染サーベイランス
青木雅子	富山大学附属病院	医療関連感染サーベイランス、感染防止技術
西原寿代	国立病院機構金沢医療センター	医療関連感染サーベイランス、職業感染管理
谷田部美千代	恵寿総合病院	感染防止技術
田中真理子	福井赤十字病院	感染防止技術
上島雅子	浅ノ川総合病院	感染防止技術
澤田明美	公立能登総合病院	感染防止技術
鍛冶佳美	地域医療機能推進機構金沢病院	感染防止技術
浦嶋ひとみ	石川県済生会金沢病院	感染防止技術
西村一美	福井大学医学部附属病院	感染防止技術
室井洋子	福井大学医学部附属病院	感染防止技術、職業感染管理
赤尾康子	加賀市医療センター	感染防止技術
森下幸子	医療法人永広会島田病院	感染防止技術
森河裕子	金沢医科大学	職業感染管理
小森幸子	加賀市医療センター	職業感染管理
架間ゆき子	金沢市立病院	職業感染管理
北川洋子	富山大学附属病院	感染管理指導と相談
池田恵子	石川勤労者医療協会城北病院	洗浄・消毒・滅菌とフェシリティマネジメント
所 正治	金沢大学	微生物検査演習
浅見 洋	石川県立看護大学	看護倫理
今井美和	石川県立看護大学	微生物検査演習
大木秀一	石川県立看護大学	疫学と統計学
垣花 涉	石川県立看護大学	学内演習（プレゼンテーション）
武山雅志	石川県立看護大学	相談
林 静子	石川県立看護大学	医療安全管理
松原 勇	石川県立看護大学	情報管理
丸岡直子	石川県立看護大学	リーダーシップ

【教育課程の実施状況】

感染管理認定看護師教育課程の年間スケジュールは表 4、実習施設は表 5 に示す。

表 4 年間スケジュール

日程	実施内容
7月5日	開講式
7月～10月	講義・演習
9月26日～28日	微生物演習
11月7日～12月7日	臨地実習
平成29年1月6日	感染管理プログラム発表
1月23日	修了試験
2月4、11日	特別講義
2月15日	修了式

表 5 臨地実習施設と実習指導者

施設名	実習指導者
金沢医科大学病院	野田 洋子
国立病院機構金沢医療センター	西原 寿代
福井赤十字病院	田中 真理子
福井大学医学部附属病院	室井 洋子
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院	池田 恵子
富山大学附属病院	北川 洋子
金沢市立病院	架間 ゆき子
富山赤十字病院	亀山 礼子
医療法人社団浅ノ川総合病院	江波 麻貴、上島 雅子

4. 評価

【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習について、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。修了生 20 名は、平成 29 年 5 月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。履修生の本教育課程に対する講義・演習・実習において 8 割以上が満足であるとの回答を得た。

【履修生の学んだ内容（抜粋）】

1) サーベイランス

- ・サーベイランスを行い、感染が起こっているかいないか、ということももちろん大事であるが、それは数値で現れる結果であり、大切なことはプロセスも同時に観察することである。
- ・サーベイランスを実施するにあたってのすべての過程が学びとなった。カテーテル関連尿路感染、手指衛生、カテーテル関連尿路感染に関連した感染防止技術の観察などを並行して実施することができ、この 3 つを関連付けて分析することの意味を理解することができた。また、その指導方法についても学ぶことができた。

2) システム

人と人との関係、人間関係の構築がとても大切であると感じた。組織横断的に活動すると言われているが、ただ他職種間、組織間を目的のためだけに活動すればよいのではなく、日頃から、コミュニケーションをとり、お互いを知ることによって、問題が発生したときにスムーズに対応もでき、お互いをフォローできるようになる。

3) 指導

カテーテル関連尿路感染は院内の全職種を対象に、いろいろな感染管理指導をレディネスに応じたレベルの内容で実施することが重要であることを学ぶことができた。

5. 今後の課題

3年間の教育課程の実施を通して、科目の進度の変更や教育期間の延長、認定看護師のシャドウイング演習などは履修生の学習効果を高めたため、今後も継続的に実施していく。次年度より休講予定であるが、修了生からの意見を参考にフォローアップ研修を継続していく。

Ⅱ. 認定看護管理者教育課程（サードレベル）

1. 目的・目標

【目的】

- 1) 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護の理念を掲げ、それを具現化するために必要な組織を構築し、運営していくことのできる能力を高める。
- 2) 看護事業を起業し運営するにあたって、必要となる経営管理能力に関する知識・技術・態度を習得する。

【目標】

- 1) 保健医療福祉に関する法律・制度・政策および看護の動向を理解し、ヘルスケアサービスを提供するための方策が立案できる能力を養う。
- 2) 経営者、起業家の視点を持ち、常に看護の開発・創造につながる発想・マネジメントができる能力を養う。
- 3) 他者を尊重し自己研鑽に励む態度を培うとともに、看護のリーダーとしての倫理観や看護観を深化させ、自律した看護管理実践能力を養う。

2. 実施状況

【教育期間】

前期：平成28年10月31日（月）～11月18日（金）

後期：平成28年12月5日（月）～12月20日（火）

発表会：平成29年1月27日（金）

【履修生数】 28名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	女性 28名
平均年齢	53歳
所属施設の所在地	
石川県	19名
富山県	6名
福井県	3名

2) 履修生の職位

看護部長	8名
副看護部長	16名
看護師長	4名

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護管理者教育課程サードレベルのカリキュラムは、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは「保健医療福祉政策論」、「保健医療福祉組織論」、「経営管理論」、「看護経営者論」、「統合演習」であり、修了要件は、すべての教科目に合格することである。授業科目及び授業時間数は表1に示す。

表1 授業科目、単元及び時間数

授業科目	単元	時間数
保健医療福祉政策論	1) 社会保障の概念	3
	2) 諸外国の保健医療福祉	3
	3) 保健医療福祉政策	3
	4) 看護制度・政策	3
	5) 制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	6
	6) 保健医療福祉政策演習	12
		【小計】 30
保健医療福祉組織論	1) 保健医療福祉サービスのマーケティング	6
	2) 組織デザイン論	9
	3) ヘルスケアサービスの創造	6
	4) 保健医療福祉組織論演習	9
		【小計】 30
経営管理論	1) 医療福祉と経済論	3
	2) 医療福祉経営	9
	3) 財務管理	12
	4) 経営分析	6
	5) ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性	6
	6) 看護経営の今後のあり方	6
	7) 労務管理	6
	8) 人材フローのマネジメント	6
	9) 危機管理	6
		【小計】 60
看護経営者論	1) 経営者論	12
	2) 管理者の倫理的意思決定	12
	3) 看護事業の開発と起業	3
	4) 実習	18
		【小計】 45
統合演習	統合演習	15
総時間数		180

【担当教員】

主任教員 小清水明子（臨時講師）

担当科目：看護経営者論（実習）、統合演習

【非常勤講師】非常勤講師と担当科目一覧を表2に示す。

表2 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
中西容子	金沢市立病院	保健医療福祉政策論（保健医療福祉政策） 経営管理論（ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性）
江藤真由美	石川県健康福祉部医療対策課	保健医療福祉政策論（看護制度・政策）
大久保清子	福井県立大学	保健医療福祉政策論（制度・政策に影響を及ぼす看護管理者）
越中のり子	国立病院機構富山病院	保健医療福祉政策論（演習）
酒井陽子	国立病院機構七尾病院	保健医療福祉政策論（演習）
高山一夫	京都橘大学	保健医療福祉組織論（サービスのマーケティング） 経営管理論（医療福祉と経済論）
野村仁美	地域医療機能推進機構金沢病院	保健医療福祉組織論、統合演習
橘 幸子	福井医療短期大学	保健医療福祉組織論（組織デザイン論）
藤田恵子	国立病院機構天竜病院	保健医療福祉組織論（組織デザイン論、演習）
出口まり子	芳珠記念病院	保健医療福祉組織論（ヘルスケアサービスの創造）、統合演習
彦 聖美	金城大学	保健医療福祉組織論（ヘルスケアサービスの創造）
中村真寿美	金沢医科大学病院	保健医療福祉組織論（演習）、統合演習
吉村光弘	公立能登総合病院	経営管理論（医療福祉経営）
工藤 高	株式会社 MM オフィス	経営管理論（医療福祉経営）
川添高志	ケアプロ株式会社	経営管理論（医療福祉経営） 看護経営者論（看護事業の開発と起業）
山田雄一	山田雄一公認会計士事務所	経営管理論（財務管理）
阿部 究	芳珠記念病院	経営管理論（財務管理）
野中時代	桑名市総合医療センター	経営管理論（経営分析）
木谷幸子	こすもす訪問看護ステーション金沢	経営管理論（看護経営の今後のあり方）
榎原千秋	コミュニティスペースやのいえ	経営管理論（看護経営の今後のあり方）
安田 忍	国立病院機構医王病院	経営管理論（労務管理）
小藤幹恵	金沢大学附属病院	経営管理論（人材フローのマネジメント）
樋木和子	金沢看護専門学校	経営管理論（危機管理）、看護経営者論（経営者論）
富澤ゆかり	金沢赤十字病院	看護経営者論（経営者論）
青木きみ代	国立病院機構金沢医療センター	看護経営者論（経営者論）
吉田千文	聖路加国際大学	看護経営者論（管理者の倫理的意思決定）
産形洋子	南が丘病院	統合演習
池田富三香	国立病院機構石川病院	統合演習
大西真奈美	芳珠記念病院	統合演習
中西悦子	金沢大学附属病院	統合演習
坂本和美	金沢市立病院	統合演習
金川克子	石川県立看護大学	保健医療福祉政策論(社会保障の概念,諸外国の保健医療福祉)
木森佳子	石川県立看護大学	アカデミックリテラシー
小林宏光	石川県立看護大学	保健医療福祉組織論（組織デザイン論）
丸岡直子	石川県立看護大学	看護経営者論（経営者論）

【教育課程の実施状況】

年間スケジュールを表3に示す。

表3 年間スケジュール

日 程	実施内容
10月31日	開講式
11月～12月	講義・演習
12月14日	臨地実習
平成29年1月27日	実習発表・統合演習発表
2月15日	修了式

4. 評価および今後の課題

【履修状況に関する評価】

講義・演習について、履修生全員が科目認定され、全員が本教育課程を修了した。修了生28名は平成29年5月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。履修生の本教育課程に対する講義・演習・実習において8割以上が満足であるとの回答を得た。

1) 受講生の評価（自由記載より）

- ・看護部トップの講師の先生から、私達を育てようとしている熱意を感じた。
- ・身近に素晴らしい講師の存在を知り、これからも教えていただきたいと思った。
- ・石川県でサードレベルを受講できたことに感謝する。
- ・医療職以外の講師や大学の講師の講義は楽しく、大変参考になった。
- ・共に学ぶ仲間が存在、出会いは貴重であり、すべて自分次第であることを実感した。
- ・北陸三県の現状やデータで講義してくださった講師により、組織分析が理解しやすかった。
- ・土曜研修スケジュールが研修開催前にわかれば、勤務調整に役立った。
- ・統合演習に向けて実習が効果的であり、もう少し早い時期に実習ができると課題の明確化につながると思った。

2) 全体的評価と今後の課題

認定看護管理者（サードレベル）教育課程の教育機関申請は平成28年3月に行い、同年7月日に認可された。認可後、受講生の募集を行い28名の受講を決定した。受講生全員は所定の教育課程を履修し、平成29年2月に修了した。修了生は平成29年5月実施予定の第21回認定看護管理者認定審査を受験予定である。

本教育課程の開設準備に着手した平成27年末時点の石川県における認定看護管理者は32名であり、全国の登録者の約1%余に過ぎなかった。北陸3県では、都道府県看護協会が認定看護管理者ファーストレベル・セカンドレベル教育課程を開設しているが、サードレベルの開設には至っておらず、資格を取得するには遠隔地での受講を余儀なくされていた。このようなことから、附属看護キャリア支援センターにおいて、サードレベル教育課程の開設の要望は高く、通学可能地域での教育課程開設は地域医療の推進に貢献できたと考える。地域ケア包括システムの構築がすすむ中、医療提供システムの新たな構築や地域連携の強化、組織変革のリーダーシップを担う看護管理者の育成はますます重要となる。今後は、看護管理者育成へのニーズ調査を進めるとともに、専任教員の確保につとめ、本課程の継続的な開講を目指したい。

Ⅲ. 平成 28 年度 保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）

1. 目的・目標

【目的】

特定の分野の実習指導を行う者に対して、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、学生の学びを活かす実習指導のあり方を修得することを目的とした。

【目標】

- 1) 「教育」と「学習」の概念を理解し、学習を支援するとはどういうことかを考える。
- 2) 青年期の心理的特徴と学習過程における心理を理解する。
- 3) 学習支援とその評価について理解する。
- 4) 看護基礎教育課程の考え方と当該実習の学習内容を理解する。
- 5) 看護学教育における実習の意義と実習指導者のあり方を理解する。
- 6) 学生が看護実践から学ぶ、その支援をする実習指導方法を理解し、自己の実習指導のあり方を考える。

2. 実施状況

【受講者数】 27 名

【受講者の所属機関】

訪問看護ステーション 11 名
 老人保健施設 8 名
 病院 6 名
 看護学校 2 名

【経験年数】

臨床経験年数 18.4 年
 実習指導者経験年数 2.4 年

3. 実施内容

表 1 研修内容と講師

日 時	研修内容	講 師
8 月 17 日 (水)	看護教育課程	石川県立看護大学 臨時講師 小清水明子 教授 林 一美 国立病院機構金沢医療センター 附属金沢看護学校 教育主事 西村 民子
8 月 18 日 (木)	教育方法・教育評価 実習指導の原理	金沢大学人間社会学域准教授 本所 恵 石川県立看護大学 准教授 石川 倫子
8 月 24 日 (水)	教育原理・教育心理 実習指導の実際 I	金沢星陵大学人間科学部 教授 高 賢一 石川県立看護大学 准教授 石川 倫子 講師 林 静子
8 月 25 日 (木)	実習指導の実際 II	石川県立看護大学 准教授 石川 倫子
9 月 14 日 (水) 15 日 (木) 16 日 (金)	実習指導の実際 II	石川県立看護大学 准教授 石川 倫子 臨時講師 小清水明子 教授 林 一美 准教授 桜井志保美 助教 子吉智恵美 国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校 教員 大野 澄子

4. 評価

【修了者数】 27名

【評価】

受講生は、看護現場には学ぶ素材がたくさんあること、指導の方法は時代とともに変化してきており、それは研究に基づくものであり、新しい知識を持って指導にあたる必要があることを学んでいた。また自らも学び続ける必要があると認識していた。

さらにロールプレイをとおして、受講生はこれまで実施してきた指導に加えて、学生の思いを細かく、深く聞く大切さを学び、学校の実習要項（目標）、学生の目標と、指導者の考える指導目標をリンクさせ、実習校の教員と思いを共有することの大切さを実感していた。

以上より、受講者全員が講習会の目標を概ね達成していた。

【講習会プログラムに対する受講者の意見】

- ・時間をとったグループワークがとても学びを深められたと思う。一方通行での学習はあとで残らず自分達で考え、深めていくことが、意義のあることだと思った。

【受講生の学びの一部】

- ・学生なりの学びと、指導者が理解して欲しい学びがあり、それぞれに指導し、理解を深めることで、目標が達成できることがわかった。学生の気持ちに寄りそう大切さを学んだ。
- ・学生も常に何かを感じ、考えており、その内容を聞きだすことが重要となってくるということがわかった。また、指導者としての視点だけでなく、学生の視点も考え、その学生に適切な指導目標をたてていきたい。
- ・一方的に教えることは指導ではなく、学生の反応や頭の中をみて質問をしたり、語ってもらうことが重要であると思った。また「待つ」という姿勢をもてるように意識していきたい。

5. 今後の課題

受講生からは、学生の演習場面や講義の様子を見学したり、実習に対する思いや期待、不安、希望などを聞きたいという要望もあったため、今後のプログラムに取り入れていく。



講義・グループワークの様子

IV 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

1. 目的・目標

【目的】

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

【目標】

医療機関の経営管理課題に対し、解決策を査定することができる。

2. 実施状況

石川県内 22 病院から 28 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 27.3 年であり、職位は、副看護部長 4 名、看護師長 26 名であった。なお、研修前半 2 日を公開講座とし、延べ 90 名が参加した。

3. 実施内容

平成 28 年 9 月 30 日、10 月 7 日、10 月 21～22 日に下記の内容で、前半の 2 日は講義形式、後半の 2 日は講義・演習形式により研修を実施した（表 1）。

表 1 .研修日程と内容

日 時	研修内容	講 師
9 月 30 日（金） 9:30～12:30	[公開講座] 地域包括ケア時代における看護 管理者の役割	石川県立看護大学 教授 丸岡直子
13:30～15:30	看護と介護の連携を考える	大阪保健福祉専門学校 副学校長 豊田百合子
10 月 7 日（金） 9:00～12:00	[公開講座] 地域と病院の連携についての 新たな組織づくり	芳珠記念病院 看護局長 出口まり子
13:00～15:00	人々の在宅療養を支援し地域に 根ざす病院の役割	脳神経センター大田記念病院 大田章子
10 月 21 日（金） 9:00～16:00	看護管理者のための 病院経営数字力	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村路子 副看護部長 高見知世子
10 月 22 日（土） 9:00～16:00	組織分析に基づく看護管理上の 課題解決に向けた戦略	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村路子 副看護部長 高見知世子 (ファシリテーター) 林春美 (石川県立中央病院) 高橋ひとみ(公立松任石川中央病院) 河内昌子 (石川県済生会金沢病院) 高田千嘉 (千木病院)

4. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容の理解と活用 (図 1)

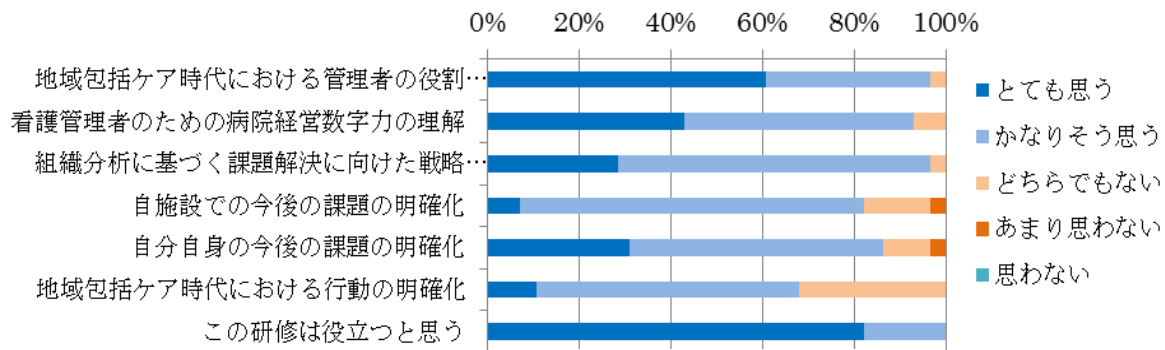


図 1. 研修内容の理解と活用

(2) 自由記載より (抜粋)

- ・公開講座ではさまざまな取り組みの事例があり、参考になった。今回の研修内容を参考に主任の管理研修を計画したい。
- ・データの効果的な示し方、交渉の仕方を具体的に学び、大変有意義な内容であった。
- ・データ化し、スタッフまたは病院長、事務長に看護部の現状を伝えていきたい。モヤモヤしていたものがスッキリし元気になった。
- ・組織を分析する手法をおさえ、戦略をもってこれから取り組みたい。
- ・他施設との交流はとても刺激的で、ネットワークを作るためにも、このような研修の機会は大切である。
- ・日々の業務に追われ非常に疲弊していたが、研修に参加し前向きに考えることができ、有意義な研修であった。
- ・データ管理の重要性、看護管理者としてどうあるべきなのかを認識することができた。

2) 全体的な評価と課題

受講生全員が4日間の所定の研修に参加し、修了した。

今年度の看護管理者経営研修では、昨年度の引き続き、地域包括ケアシステムの構築における医療施設の看護管理者の果たす役割を考究し、看護実践の改善につなげる内容を企画した。受講生のほとんどが看護師長であり、地域に果たす自施設の役割を再認識し、人々の在宅療養を支える看護の役割を再考できたのではないかと考える。

また、研修後半の内容は、多くのデータから組織分析する能力と看護管理上の課題解決を図る戦略と交渉力を向上させるものであった。受講生は、ロールプレイやグループ討議によりデータを活用した業務改善や組織変革の具体的な方法を学ぶことができたのではないかと考える。

受講生からのアンケート調査では、すべての受講生が、この研修は看護管理に有用であると回答しており、次年度も看護管理者経営研修を継続して開催したいと考える。

V. 平成 28 年度 認定看護師活動報告会

1. 目的

在宅療養に向けた多職種協働における認定看護師の役割を再考し、自己の課題を明らかにする。

2. 実施状況

【参加者数】 124 名

図 1.所属

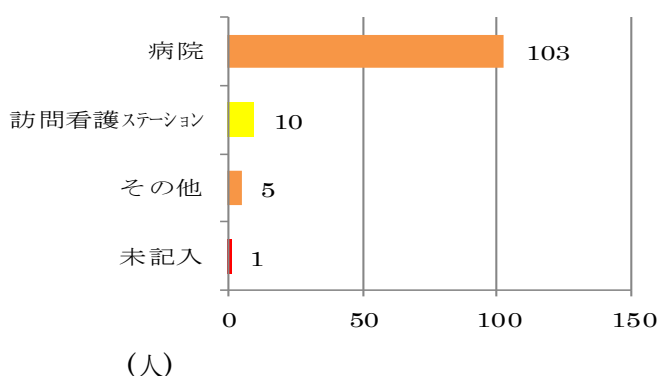
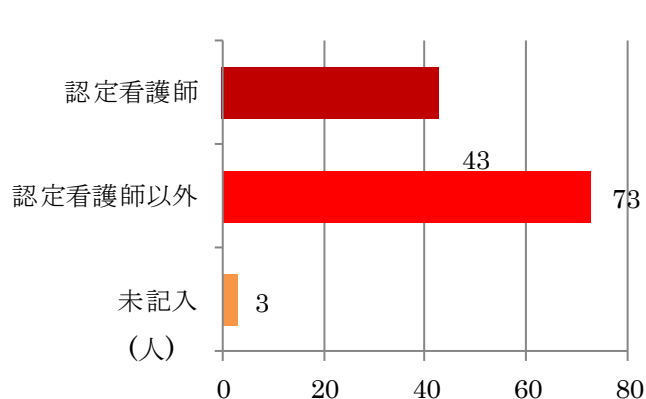


図 2.認定看護師の有無



3. 実施内容

テーマ：在宅療養に向けた多職種協働における認定看護師の役割の再考

日時：平成 29 年 2 月 4 日（土）13:00～15:00

座長：芳珠記念病院 看護局長 出口まり子

看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子

シンポジスト

木下真由美：公立能登総合病院訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師

寺田 祐里：やまと@ホームクリニック 緩和ケア認定看護師

福井 亜紀：芳珠記念病院 認知症看護認定看護師

細田 清美：福井済生会病院 感染管理認定看護師 日本看護協会特定行為研修了

【シンポジストの発表概要】

「在宅療養に向けた多職種協働における認定看護師の役割の再考」をテーマに、緩和ケア認定看護師としてクリニックで、感染管理認定看護師として高齢者施設で、認知症看護認定看護師として院内ディケアやもの忘れ外来で、訪問看護認定看護師として在宅で、それぞれが病院と地域をつなぐ新たな活動の場で、新たな役割を発表された。その活動では、「顔のみえる、心のみえる関係づくり」を大切に、「皆さん、お知恵を貸してください」と患者・家族と医療職がともに在宅での療養生活を整えていた。

具体的な事例を通しての発表は、リアリティにイメージができ、参加者それぞれが看護師、認定看護師認定看護管理者等としての役割を再考する機会となった。

4. 評価

【内容に関して】

参加者は「在宅療養支援の振り返りができた」「参考になった」という意見が多かった。

【参加者の感想】

(1) 認定看護師

- ・院内での取り組みだけでなく、院外の周辺施設や連携施設との連携が大切であることがわかった。具体的な事例が聞けたので取り組む方法や連携が必要な職種がわかった。専門性を生かして、他の認定看護師や職種との連携をしながらチーム医療として患者に関わって行く必要性をとて実感した。
- ・違う分野だからでなく、認定看護師として組織横断的に取り組める強みを活かして認定同士、皆で協力して支援していくことが大切だと痛感した。
- ・病院に勤務する緩和ケア認定看護師として働いているが、退院調整看護師とともに地域の訪問医、医療社会福祉士など、もっと近い関係で築いていく必要があると感じた。患者家族が大切にしていることを守るために、面のつなぎりで支えていく必要がある。

(2) 病棟看護師

- ・病院の看護師が在宅へ向けてどのような視点をもっていけばいいのか横断的活動の実践から学べた。

(3) 看護管理者

- ・認定看護師がどのように活動しているのかを具体的に聞けたので配属に考慮したい。
- ・認定看護師の役割や、今、看護に求められている大切なものを意識できる看護師育成につなげていきたい。

5. 今後の課題

認定看護師の方々が自己の活動を振り返ることができ、新たな役割を考えることができたと考える。認定活動報告会を継続して企画してほしいという要望が多くあり、次回は他分野の認定看護師の活動報告を企画していく。その際には認定看護師の活動を再考できる内容としたい。



シンポジウムの様子

VI. 平成 28 年度 石川県看護教員現任研修事業

1. 目的・目標

【目的】

現代社会において、知識や技能を活用したり創造したりする力が求められている。高等教育では「学士力」「社会人基礎力」として取り上げられている。この知識・技能を活用する力、いわゆる課題を解決する思考力・判断力・表現力を、育成するための授業づくりをパフォーマンス評価の観点から考える。

【目標】

「学習者が自らの経験を活用する力」を育成するための授業のあり方を再考する。

2. 実施状況

【受講者数】 19名

【参加施設】

病院 5名

教育機関 14名

【経験年数】

看護教員 3～30年

新人看護職員研修担当 0～2年

3. 実施内容

表 1. 研修内容と講師

日時	研修内容	講師
6月11日(土)	日々の教育活動の振り返り 学生が自らの経験を活用できるための支援者として、日々の教育活動を振り返り、自己の課題を見つける 「経験を活用する力」を育成する パフォーマンス評価	石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真
6月25日(土)	看護学教育における パフォーマンス評価の実際 学生が自らの経験を活用できるための授業のあり方をパフォーマンス評価の観点から考える 実際にパフォーマンス評価による授業を考えた教員から作成のコツを提供する	石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 金沢医療センター 附属金沢看護学校 教員 松本 晶愛
7月2日(土)	グループワーク 学生が自らの経験を「活用する力」を育成する授業づくり	石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子
12月17日(土)	「活用する力」を育成する 授業実践の評価 各グループで作成した授業と実践した結果を共有しあい、自己の教育課題解決の糸口とする	摂南大学看護学部看護学科 教授 竹中 泉 石川県立田鶴浜高等学校 教員 庄藤 智恵美

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

- ・ねらいやねがいを再確認し、学生が変化するためには、自分がどう変化しなければいけないのかが見えた。
- ・パフォーマンス課題をやることで、学ぶ側の考えていることがわかり、さらにグループワークで共有することで学びが深まっていると実感できた。
- ・学生と教員間の評価のすり合わせに、ルーブリックがとても有効だと感じた。
- ・学生の経験を活用することがとても大切で、授業改善をさらに追究していきたい。
- ・新人の集合研修等で、パフォーマンス評価（ルーブリック）を活用することで新人の思考を大切にし、OJT（On-the-Job Training）へつなげ、質の向上へつながるようにしたい。
- ・パフォーマンス課題で実際にグループワークをすることで、新人看護師の学習となったので、活用していきたい。

【全体評価】

課題解決型研修、全体運営は、19名の方全員がよかったと評価された。また教育活動を振り返る機会や教育活動の参考になったと全員が評価された。参考になった内容は、パフォーマンス課題のつくり方やルーブリックの考え方、活用の仕方が主で、これらの講義・演習をとおして、学生の捉え方が変化していた。概ね目的は達成できたと考える。



パフォーマンス評価の発表

5. 今後の課題

現在、重要視されている状況的学習論に基づく評価を看護教員も理解を深めていく必要がある。受講生からも、継続して学びを深めていきたいという要望があり、フォローアップ研修なども含めて、継続的に企画していく。

VII. 認知症看護認定看護師教育課程の開設準備

1. 教育機関申請と認可

平成 28 年 5 月に、認知症看護認定看護師教育課程の開設準備担当者として特任准教授を配置し、認知症看護認定看護師教育課程規定および細則の策定、カリキュラムの構築と講義担当教員（非常勤講師を含む）や実習施設の確保などの開設準備を行った。8 月 19 日に、日本看護協会に当該教育課程の教育機関申請を行い、10 月 21 日に教育機関として承認された。

認知症看護認定看護師教育課程の入学試験は平成 29 年 5 月に、開講は同年 7 月を予定しており、受講生の募集を開始した。

2. 入学試験説明会の開催

今年度は、2 回の入学試験説明会を実施した。説明会の概要を以下に示した（表 1）。

表 1 開催日と内容

回	開催日	内容・担当者	参加人数
1	平成 28 年 11 月 23 日	1. 認知症看護認定看護師教育課程の概要 （教育目的・内容、出願資格、入学試験方法等） 担当：特任准教授 徳田真由美 2. 認知症看護認定看護師の活動の実際と受験アドバイス 担当：堅田三和子（JCHO 金沢病院 認知症看護認定看護師） 多幡明美（石川県立高松病院 認知症看護認定看護師） 3. 個別相談	51 名
2	平成 29 年 2 月 18 日	1. 認知症看護認定看護師教育課程の概要 （教育目的・内容、出願資格、入学試験方法等） 担当：特任准教授 徳田真由美 2. 認知症看護認定看護師の活動の実際と受験アドバイス 担当：堅田三和子（JCHO 金沢病院 認知症看護認定看護師） 林 浩靖（光ヶ丘病院 認知症看護認定看護師） 3. 個別相談	61 名